

働くことの喜び、お金の大切さ、使い方を知ろう —お買い物ごっこを通して—

(総授業時数：24 時間)

実施学年、教科等

特別支援学級（1、2、3、4年生）
生活単元学習、算数、生活、特別活動（学級活動）

単元の目標

- (1) 買い物の楽しさを味わい、日常生活に進んで活用しようとする態度を養うことができるようにする。
- (2) お金の種類、数え方、計算の方法、等価関係について理解できるようにする。
- (3) 買い物の仕方、お金の払い方が分かるようにする。

学習の評価

- (1) 買い物の楽しさを味わい、買い物ごっこで身に付けたスキルを日常生活に生かそうとしている。
(発表・授業での発言)
- (2) お金の種類、数え方に慣れ親しみ、お金の計算方法、等価関係について理解を深めている。(授業での行動)
- (3) 買い物の仕方、お金の払い方を理解している。
(ワークシート・発表)

展開の特色

- (1) 特別な支援が必要な児童には、体験的で実用的な学習が求められる。したがって、いかに学校の授業で習得した知識を実生活で活用させるかを意識して、単元構成や学習活動を考えている。
- (2) 特別支援学級独自の生活単元学習の時間だけでなく、お金の計算、等価関係などの学習は算数の時間にも実施することができる。買い物ごっこの準備や練習、買い物の計画は総合的な学習の時間、特別活動（学級活動）、道徳などとも関連させて、1教科の枠にとらわれない横断的な学習を心がけている。
- (3) お金の得方と使い方の習得をメインに学習を進める。勤労の対価としてお金を獲得し、お金の大切さを確認した上でお金の使い方を練習させる。そして、お買い物ごっこを通して将来自分で稼いだお金で買い物ができるように支援する。まとめとしてスーパーで自分の力で買い物をする経験をさせる。

その他

- *学級園で育てた野菜を職員室で販売し、お金を得るためにはどうしたらいいかが分かるようにする。また、お金の大切さについて教える。
- *得たお金でホットケーキの材料を買い、お金の有効な使い方が分かるようにする。
- *教育活動全体を通して、勤労の対価として、お金が得られることやお金の大切さを教える。
- *お金の使い方やスーパーでの支払いの方法を練習して、将来自分で買い物ができるように支援する。
- *全体として、お金の得方と使い方の2本立てとすることを意識する。

「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

*記号については、P.32～45を参照。

Aーア、Bーア・イ、Cーア、Dーア

学習内容のキーワード

特別支援教育、硬貨、数え方、等価関係、買い物、買い物ごっこ、値段の計算、支払い

●指導計画

時数	目 標	●主な学習活動	・主な評価規準	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
1	・お金の種類を知る。	●お金を種類ごとに分ける。 ●お金を見て、金額がいくらあるか知る。	・お金には、いろいろな種類があることを知る。	◆お金にはいろいろな種類があることに気付く。	★実際のお金(硬貨)を用意して、どんな種類のお金があるのか確認させる。	・実物の硬貨(1円、5円、10円、50円、100円、500円)
2 3 4	・お金の数え方を知る。	●1円、5円、10円、50円、100円、500円の数え方を知る。	・それぞれのお金の数え方を知る。 ・種類によって数え方の違うことを知る。	◆お金の単位(円)を知る。 ◆お金を数える練習をして、合計でいくらになるのか計算できるようにする。	★お金は円という単位を使うことを知らせ、言う練習をして定着を図る。 ★同一金種の数え方を繰り返し練習させて、合計金額の求め方の定着を図る。	・1円、5円、10円、50円、100円、500円の硬貨の模型
5 6 7 8	・等価関係を知る。	●等価関係を知る。(1円5枚と5円1枚、1円10枚と5円2枚など)	・種類が違って同じ金額であれば、同じ価値であることを知る。	◆等価関係を知る。 ◆お金の種類が違って同じ価値であることを知る。	★1円玉5枚と5円玉1枚の掲示物を見せ、視覚に訴えかける支援により、どちらも5円であることに慣れ親しませ、知識の定着を図る。	・拡大した掲示物の硬貨の掲示物
9 10 11	・買い物ごっこをする。① ・買うときの言葉を知る。	●お客さんとして買い物の仕方を知る。 ●買うときの言葉を覚える。 ●値段と同じお金模型を選んで支払いをする。	・品物の値段と同じお金の模型を出せる。 ・買い物をするときの言葉を知り、使うことができる。	◆買い物ごっこを通して買い物をするときの言葉遣いを知る。	★「〇〇ください。」「いくらですか。」など、買い物をするときの基本的な話型を教える。 ★値札と同じ金額を支払う練習を繰り返し行う中で、買い物の仕方を身に付けさせる。	・硬貨の模型 ・児童用の財布 ・商品のレプリカ ・レジの玩具 ・値札
12 13 14 15 16	・買い物ごっこをする。② ・チラシの中から選んで買い物を する。	●チラシを見て買いたい物を選ぶ。 ●買いたい物の金額をお釣りがなく支払うことができる。	・自分の買いたい物を選ぶことができる。 ・複数の品物の値段の計算ができる。	◆チラシを見て、自分の買いたい物を選ぶことができる。 ◆チラシを見て、自分が買いたい物の値段を調べることができる。 ◆調べた値段のお金を支払うことができる。	★目的に応じて必要な物を選ばないといけないことを理解させる。 ★チラシから情報を読み取り、品物がいくらか判断することができるようにする。 ★調べた金額をお釣りがないように、支払う練習を繰り返し行い、自分で買い物ができるようにする。	・硬貨の模型 ・児童用の財布 ・児童配付用チラシ
17 18 19 本時	・買い物ごっこをする。③ 「ホットケーキの材料を買う」 ・買い物メモを見て買う。	●メモを見て自分の買う品物を探す。 ●買う品物の値段の合計の計算をする。 ●財布の中から合計金額と同じ金額のお金を出して支払う。	・指定された品物の値段を調べることができる。 ・買う品物の値段の合計の計算ができる。 ・金額にあったお金を用意できる。	◆買い物ごっこを通して、目的に応じた買い物ができるように練習する。	★ホットケーキ作りに必要な材料をメモに書かせる。 ★メモを見ながら、買う物を探す練習をさせる。 ★品物の合計金額を児童の実態に応じて支援しながら計算させる。 ★お金を払い、買い物をする練習をさせる。	・買い物メモのワークシート ・硬貨の模型 ・児童用の財布 ・商品のレプリカ ・買い物かご ・レジの玩具 ・値札 ・計算機(必要に応じて)
20 21 22 23 24	・スーパーで買い物を する。「ホットケーキの材料を買う」 ・メモを見て買う。	●メモを見て品物を探す。 ●レジに表示された金額を確認し、お金を払うことができる。	・品物を正確に選べる。 ・レジでお金の支払いができる。	◆学習のまとめとして、ルールや順番を守り、スーパーでの買い物を体験する。 ◆購入する物を探し、レジまで行ってその代金を自分で支払う練習をする。	★品物が見つからなかったときや分からないことがあったときは、お店の人に聞くよう指導する。 ★児童の学習の習熟度に応じて担任の付き添いのもと、買い物に慣れ親しませる。	・買い物メモ ・お金 ・財布

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

●本時の展開

本時の目標

- ア：買い物ごっこに意欲的に参加することができる。(関心・意欲・態度)
 イ：買う物や値段を調べることができる。(技能)
 ウ：お客として買い物の仕方やお金の払い方が分かる。(知識・理解)

時間	学習の流れ	A児(1年)	B児(2年)	C児(3年)	D児(4年)	評価	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他
導入 5分 (5)	本時のめあてを聞く。 ・担当になった物を買ってくる練習をすることを覚える。	○学習内容の掲示を見て、本学習の流れを知る。 ○担当になった物を買ってくる練習をすることを覚える。				・今日のめあてを聞こうとする。 (関心・意欲・態度)	◆自分の担当になった物を買ってくる練習をすることを覚える。	★掲示用のカードを活用し、視覚的な支援もして学習全体の流れを児童に示し、見通しをもたせる。	・目標掲示カード ・学習内容掲示カード
展開 10分 (15)	1 お金の数え方を確認する。 ・硬貨の模型を使って数え方の確認をする。	○硬貨の模型を使って1円、5円、10円、50円、100円、500円硬貨の数え方を振り返り、確認する。 ▲「〇〇円」まで、しっかりはっきり言うように促す。				・お金の数え方が分かる。 (知識・理解)	◆お金の正しい数え方を確認する。 ◆お金の払い方を意識した数え方を練習する。 ◆お金の単位(円)についても知る。	★同一金種の数え方から始め、異金種の数え方を中心に数える方法を身に付けさせる。 ★児童の実態に応じて個に応じた課題を設定する。	・1円、5円、10円、50円、100円、500円の硬貨の模型
10分 (25)	2 自分が担当になったホットケーキの材料の値段を調べる。 ・何をかうか1つずつ担当を決める。 ・チラシを見て値段を調べる	○何をかうか決める。 ○値段を調べる。 ▲迷っている時は適切な声かけをする。	○何をかうか決める。 ○値段を調べる。 ▲根気よく最後まで取り組めるよう声かけをする。	○何をかうか決める。 ○値段を調べる。 ▲自分で選び、値段が調べられるよう声かけをする。	○何をかうか決める。 ○値段を調べる。 ▲分からないときは質問してよいことを事前に知らせる。	・買う物や値段を調べることができる。 (技能)	◆売り物には値段が設定されていることを知る。 ◆値段はチラシに記載されており、自分の買う物がどこに載っているか見つけることができる。 ◆チラシを見て、自分の買う物がいくらか調べるができる。	★同時にいろいろな活動に取り組むことが苦手な児童が多いため、スモールステップで学習を進める。 ①自分の買う物を決める ②チラシで買う物を見つける ③チラシで値段を調べる	・掲示用の拡大したチラシ ・児童用のチラシ
15分 (40)	3 担当になった物を買う練習をする。 ・財布の中から品物の値段と同じ金額のお金を用意する。 ・お金を払って買い物をする。	○財布の中から品物の値段と同じ金額のお金を払う。 ▲焦らずゆっくりお金を払うよう声かけをする。	○補助教材を使ってお金を払う。 ▲適切にお金を選び、支払いができるように声かけをする。	○金種別で金額を確認しながら支払いをする。 ▲必要に応じてヒントを与える。	○等価関係を意識した支払いをする。 ▲上手にお金を支払えた時はほめる。	・買い物ごっこに意欲的に参加することができる。 (関心・意欲・態度) ・買い物の仕方やお金の払い方が分かる。 (知識・理解)	◆品物の値段と同じ金額のお金を財布から出すことができる。 ◆お金を正しく払い、品物を買う練習をすることができる。	★お金の払い方に不安が残る児童には、補助シートを活用させ、その上にお金を乗せ、お金を数えさせる。 ★買い物をするときの言葉遣いにも気を付けさせながら買う練習をさせる。	・児童用財布 ・硬貨の模型 ・品物のレプリカ ・レジスターの玩具
まとめ 5分 (45)	本時のまとめをする。 ・自分の買った品物と金額を発表する。	○自分の買った品物と金額を発表する。 ▲まず、何を買ったか発表させ、次に、金額がいくらかだったか発表させる。				・自分が買った物と金額を発表することができる。 (関心・意欲・態度)	◆買い物ごっこに楽しく参加できたかを確認しながら、自分の買った物と値段を発表することができる。	★発表が苦手な児童には、まず何を買ったのかを発表させ、その後に値段を発表させるようにする。 ★発表が得意な児童には、買い物ごっこをしてがんばったことや楽しかったことなど、感想も言わせる。	・視覚支援用の発表の仕方を示したピクチャーカード ☆発表☆ ①かったもの ②ねだん ③かんそう

1 金融教育のねらいと基本的性格
 2 金融教育の目標と方法
 3 金融教育を支援する関係機関等の活動
 4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
 5 小学校における金融教育
 6 中学校における金融教育
 7 高等学校における金融教育
 資料

1 金融教育のねらいと基本的性格
 2 金融教育の目標と方法
 3 金融教育を支援する関係機関等の活動
 4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
 5 小学校における金融教育
 6 中学校における金融教育
 7 高等学校における金融教育
 資料

●教材・資料等 (本時の授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

スーパーふれあい

〇〇学級
お買い物ごっこチラシ
平成〇〇. 〇〇. 〇〇
〇〇小学校

☆ホットケーキをつくろう☆



300 えん



130 えん



300 えん



250 えん



150 えん



230 えん

1 金融教育のねらいと
基本的性格

2 金融教育の
目標と方法

3 金融教育を支援する
関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の
作成と実施に向けて

5 小学校における
金融教育

6 中学校における
金融教育

7 高等学校における
金融教育

資料